

豚熱（CSF）からワクチン接種前の子豚を守るために。

群馬県(71 例目)で豚熱発生。

ワクチン接種農場での発生です。

感染豚は、40 日齢のワクチン接種前の子豚でした。

8月7日に、群馬県桐生市の一貫経営農場でワクチン接種前の40日齢の子豚でCSFの発生が確認されました。

CSF ワクチンの説明書には、子豚では母豚からの移行抗体を考慮して1~2か月齢時に初回接種するとされています。

一般的に、ワクチンを40日齢未満で接種しても移行抗体の影響で子豚は免疫が付与されません。また、母豚へのワクチン追加接種で、母豚は免疫力が高まり、子豚の移行抗体の消失日齢が遅くなるケースもあります。

71例目の感染豚は、40日齢までに感染を防御できるだけの移行抗体が消失し、ワクチン接種まではさまの時期に感染したと推察されます。現在、CSF ワクチンは、50~60日齢での接種が推奨されていますが、この農場では遅いことがわかります。

(茨城県は、30~40日齢での接種を推奨しています。)

CSF からワクチン接種前の子豚を守るには、移行抗体の消失からワクチン接



種、ワクチン抗体が上昇するまでの期間にウイルスを感染させない対策が必要です。基本は、飼養衛生管理基準を遵守すること。ワクチン未接種豚が飼養されている離乳豚舎等の飼養衛生管理のより一層の徹底です。そして、子豚の移行抗体の消失時期を知り、ワクチンを適期に接種すること。その体制を整えることです。

群馬県は、6月28日から知事認定獣医師制度を活用したワクチン接種が開始されています。茨城県も9月から家畜防疫員に加え知事認定獣医師によるワクチン接種が予定されています。接種適期にワクチン接種ができる新たな体制へと進みます。